



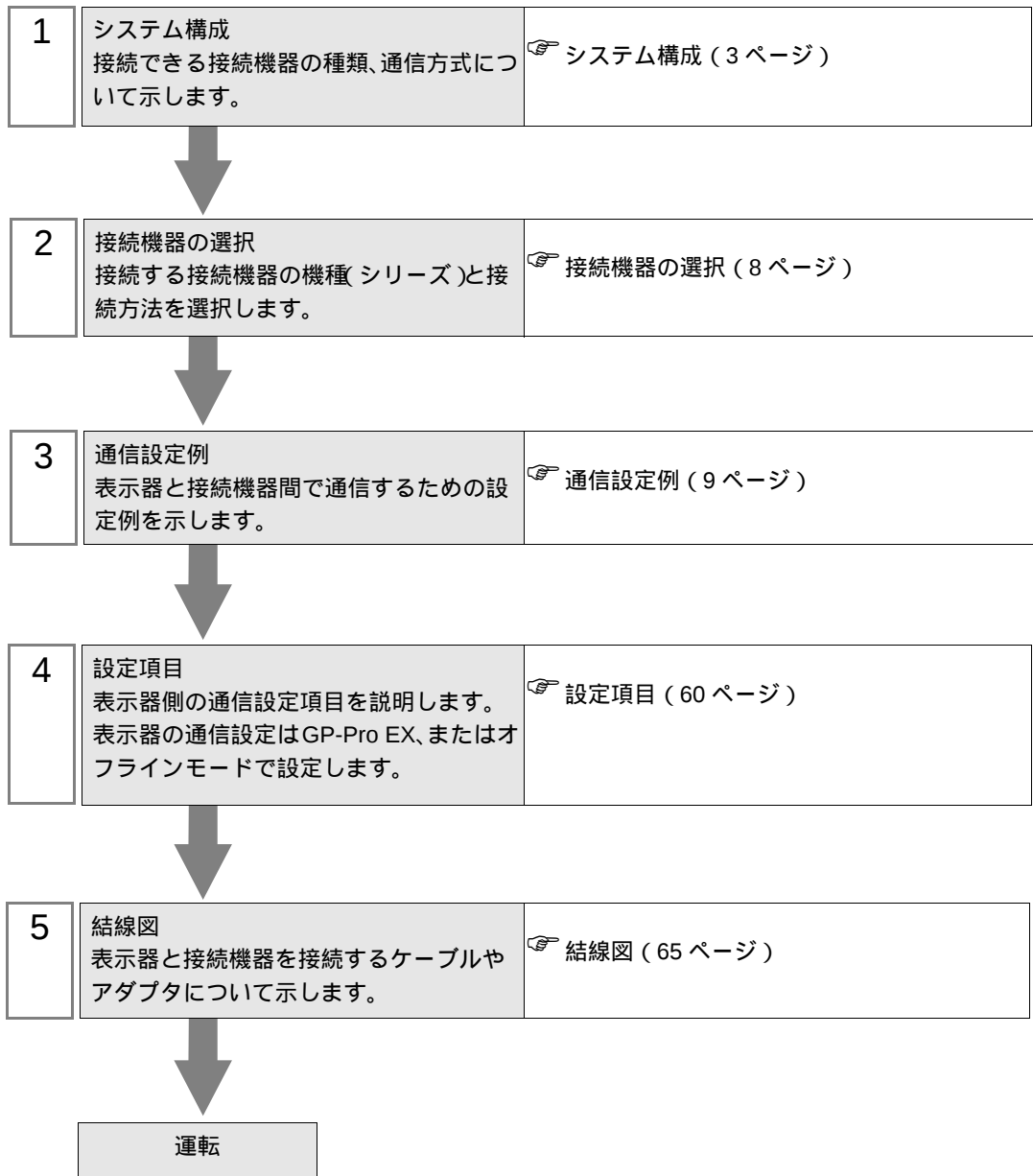
KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択	8
3	通信設定例	9
4	設定項目	60
5	結線図	65
6	使用可能デバイス	83
7	デバイスコードとアドレスコード	93
8	エラーメッセージ	96

はじめに

本書は表示器と接続機器を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

光洋電子工業（株）製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
KOSTAC SG	SG-8	G-01DM 上の CN1	RS232C	設定例 1 (9 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
		G-01DM 上の CN2	RS232C	設定例 2 (11 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 3 (13 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート ¹	RS232C	設定例 4 (15 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 5 (17 ページ)	結線図 3 (71 ページ)
KOSTAC SU	SU-5	U-01DM	RS232C	設定例 6 (19 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 7 (21 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
	SU-5E SU-6 SU-6B SU-6B-C	U-01DM	RS232C	設定例 6 (19 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 7 (21 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 8 (23 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 9 (25 ページ)	結線図 3 (71 ページ)
	SU-5M SU-5M-C	U-01DM	RS232C	設定例 6 (19 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 7 (21 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 1	RS232C	設定例 10 (27 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 11 (29 ページ)	結線図 3 (71 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 12 (31 ページ)	結線図 4 (74 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 3 ²	RS422/485 (4 線式)	設定例 13 (33 ページ)	結線図 6 (75 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
KOSTAC SU	SU-6M SU-6M-C	U-01DM	RS232C	設定例 6 (19 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 7 (21 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 1	RS232C	設定例 10 (27 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 11 (29 ページ)	結線図 3 (71 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 12 (31 ページ)	結線図 4 (74 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 3 (D- Sub25 ピン使用 時) ²	RS422/485 (4 線式)	設定例 13 (33 ページ)	結線図 6 (75 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 3 (6 ピン端子台使用 時) ²	RS422/485 (4 線式)	設定例 13 (33 ページ)	結線図 7 (77 ページ)
KOSTAC SZ	SZ-4	CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 14 (35 ページ)	結線図 4 (74 ページ)
KOSTAC PZ3	PZ3-16ND1-16TD1 PZ3-T PZ3M	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 25 (56 ページ)	結線図 8 (79 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 26 (58 ページ)	結線図 9 (80 ページ)
KOSTAC SR	SR-21 SR-22	E-02DM-R1	RS422/485 (4 線式)	設定例 15 (37 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
DL-205	D2-240	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 16 (39 ページ)	結線図 4 (74 ページ)
	D2-250-1	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 16 (39 ページ)	結線図 8 (79 ページ)
	D2-260	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 16 (39 ページ)	結線図 8 (79 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 17 (41 ページ)	結線図 9 (80 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
DL-405	D4--430	D4-DCM	RS232C	設定例 18 (43 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 19 (45 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
	D4-440	D4-DCM	RS232C	設定例 18 (43 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 19 (45 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 20 (47 ページ)	結線図 1 (65 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 21 (49 ページ)	結線図 3 (71 ページ)
DL-305	D3-330	D3-DCM	RS422/485 (4 線式)	設定例 22 (51 ページ)	結線図 2 (66 ページ)
DirectLogi c 05	D0-05AA D0-05AD D0-05AR D0-05DA D0-05DD D0-05DD-D D0-05DR D0-05DR-D	CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 23 (53 ページ)	結線図 5 (74 ページ)
DirectLogi c 06	D0-06DD1 D0-06DD1-D D0-06DD2 D0-06DD2-D D0-06DR D0-06DR-D D0-06DA D0-06AR D0-06AA	CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 24 (55 ページ)	結線図 5 (74 ページ)

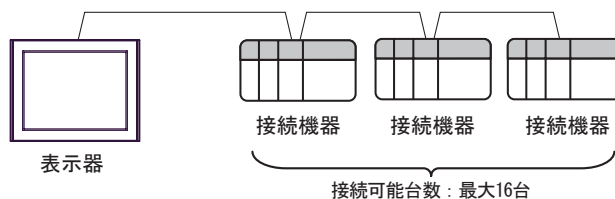
- 1 通信中はプログラマ通信ポートから命令語プログラマをはずしてください。
- 2 サブ CPU バージョンが V1.439 以上の CPU をご使用ください。

■ 接続構成

- 1 : 1 接続



- 1 : n 接続



■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート		
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1 ¹ 、COM2、 COM3 ¹ 、COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A、 PS3000-BA、PS3001-BD	COM1、COM2 ^{1 2}	COM2 ^{1 2}	COM2 ^{1 2}
PS-3650A、PS-3651A	COM1 ¹	-	-
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1 ¹ 、COM2 ¹ 、 COM3 ² 、COM4	COM3 ²	COM3 ²
PS-3711A	COM1 ¹ 、COM2 ²	COM2 ²	COM2 ²
PL-3000B、PL-3600T、 PL-3600K、PL-3700T、 PL-3700K、PL-3900T	COM1 ^{1 2} 、 COM2 ¹ 、COM3、 COM4	COM1 ^{1 2}	COM1 ^{1 2}

- 1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。
- 2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

ディップスイッチの設定：RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF ¹	予約（常時 OFF）
2	OFF	通信方式：RS-232C
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

- 1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

ディップスイッチの設定：RS-422/485（4 線式）

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

ディップスイッチの設定：RS-422/485（2 線式）

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：する
8	ON	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：する
9	ON	RS(RTS) 自動制御モード：有効
10	ON	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「光洋電子工業(株)」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO」を選択します。 「KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞ システム構成（3 ページ）
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.17.6[システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [本体設定] の設定ガイド システムエリア設定」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.15.1 表示器共通」 ■ [本体設定] の設定ガイド システムエリア設定
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- コネクタ CN2 を使用しない場合は、必ずショートプラグ を 232C DISABLE に切換えてください。

設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	子局番号：1
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
9	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ

設定用ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有 (奇数)
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	ターンアラウンドディレー：なし
7	OFF	応答遅延時間：0 ms
8	OFF	
9	OFF	伝送モード：HEX モード

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチおよびショートプラグで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	子局番号：1
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
9	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ

設定用ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	ターンアラウンドディレー：なし
7	OFF	応答遅延時間：0 ms
8	OFF	
9	OFF	伝送モード：HEX モード

ショートプラグ

ショートプラグ	設定内容
232C ENABLE	通信方式：RS232C

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチおよびショートプラグで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	子局番号：1
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
9	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ

設定用ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	ターンアラウンドディレー：なし
7	OFF	応答遅延時間：0 ms
8	OFF	
9	OFF	伝送モード：HEX モード

ショートプラグ

ショートプラグ	設定内容
232C DISABLE	通信方式：RS422

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	ON	通信方式：RS232C
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	OFF	通信方式：RS422
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

局番設定用ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	設定内容
× 10	0	接続機器の局番（十の位）
× 1	1	接続機器の局番（一の位）

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	応答遅延時間：0 ms
7	OFF	
8	OFF	

設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定：通常動作モード
4	OFF	伝送モード：HEX モード

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

局番設定用ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	設定内容
× 10	0	接続機器の局番（十の位）
× 1	1	接続機器の局番（一の位）

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	応答遅延時間：0 ms
7	OFF	
8	OFF	

設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定：通常動作モード
4	OFF	伝送モード：HEX モード

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.10 設定例 10

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.11 設定例 11

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.12 設定例 12

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.13 設定例 13

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.14 設定例 14

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は命令語プログラム (S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。
-

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、ENT キーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。
-

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数 (ODD) に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.15 設定例 15

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	OFF	パリティの有 / 無：無
4	ON	自己診断モード：OFF
5	OFF	ターンアラウンドディレー：なし
6	OFF	電源投入時モード：システムに合わせてください。
7	OFF	常時 OFF
8	OFF	伝送モード：HEX モード

設定用ディップスイッチ SW2

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	子局番号：1
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	常時 OFF

3.16 設定例 16

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は命令語プログラム（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。
-

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、ENT キーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。
-

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.17 設定例 17

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は命令語プログラム（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。
-

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、ENT キーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。
-

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.18 設定例 18

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

局番設定用ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	設定内容
× 10	0	接続機器の局番（十の位）
× 1	1	接続機器の局番（一の位）

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	応答遅延時間：0 ms
7	OFF	
8	OFF	

設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定：通常動作モード
4	OFF	伝送モード：HEX モード

3.19 設定例 19

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要

メーカー 光洋電子工業(株) シリーズ KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO ポート COM1

文字列データモード 1 変更

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☒ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☐ 偶数 ☒ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☐ なし ☒ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台

No. 機器名 設定

1 PLC1 シリーズ=DL-205/DL-405シリーズ,局番号=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

個別機器設定

PLC1

シリーズ DL-205/DL-405シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

局番号 1

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

局番設定用ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	設定内容
× 10	0	接続機器の局番（十の位）
× 1	1	接続機器の局番（一の位）

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無：有（奇数）
5	OFF	自己診断モード：OFF
6	OFF	応答遅延時間：0 ms
7	OFF	
8	OFF	

設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定：1 対 n モード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定：スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定：通常動作モード
4	OFF	伝送モード：HEX モード

3.20 設定例 20

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

接続機器1

概要

メーカー シリーズ ポート [接続機器変更](#)

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 ☒ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☐ 偶数 ☒ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☐ なし ☒ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台

No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=DL-205/DL-405シリーズ,局番号=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

個別機器設定

PLC1

シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

局番号

[初期設定](#)

[OK\(O\)](#) [キャンセル](#)

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.21 設定例 21

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ（S-01P）を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード：システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定：有効
SW3	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
SW4	ON	

MEMO

- ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となります。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

CCM 局番設定

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO

- ・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数（ODD）に設定し、エンタキーを押します。

3.22 設定例 22

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
2	ON	
3	OFF	パリティの有 / 無：無
4	ON	自己診断モード：OFF
5	OFF	ターンアラウンドディレー：なし
6	OFF	電源投入時モード：システムに合わせてください。
7	OFF	常時 OFF
8	OFF	伝送モード：HEX モード

設定用ディップスイッチ SW2

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	子局番号：1
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	常時 OFF

3.23 設定例 23

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定は命令語プログラム（Z-20JP）で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー] と押し、ENT キーを押します。
- 2 プロトコルを「CCM2」に設定し、ENT キーを押します。
- 3 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、ENT キーを押します。

MEMO

・ 表示器で設定した局番に合わせてください。

- 4 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。
- 6 ストップビットを 1bit に設定し、ENT キーを押します。
- 7 パリティを奇数（ODD）に設定し、ENT キーを押します。

3.24 設定例 24

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信機器の通信設定は必要ありません。

ボーレート伝送速度および局アドレスは固定です。

また、パリティ、データ長、ストップビットも変更方法はありません。

3.25 設定例 25

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（DirectSOFT32- プログラミングバージョン 4.0）で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフト（DirectSOFT32）を起動し、接続機器とオンライン状態にします。
- 2 [PLC] メニューから [設定] - [汎用通信ポート設定] を選択します。
- 3 [通信ポートの設定] ダイアログボックスで通信設定を以下のように行います。

項目	設定
ポート	ポート 2
プロトコル	CCM ネット（DirectNET）
タイムアウト	500 ms
RTS on デイレイ時間	20 ms
局番	1
速度	19,200 bps
ストップビット	1
パリティ	奇数
データ形式	ヘキサ

- 4 設定完了後、[転送] をクリックし、設定内容を接続機器へ転送します。

3.26 設定例 26

■ GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（DirectSOFT32- プログラミングバージョン 4.0）で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフト（DirectSOFT32）を起動し、接続機器とオンライン状態にします。
- 2 [PLC] メニューから [設定] - [汎用通信ポート設定] を選択します。
- 3 [通信ポートの設定] ダイアログボックスで通信設定を以下のように行います。

項目	設定
ポート	ポート 2
プロトコル	CCM ネット（DirectNET）
タイムアウト	500 ms
RTS on デイレイ時間	20 ms
局番	1
速度	19,200 bps
ストップビット	1
パリティ	奇数
データ形式	ヘキサ

- 4 設定完了後、[転送] をクリックし、設定内容を接続機器へ転送します。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 通信設定例（9 ページ）

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要

メーカー 光洋電子工業(株) シリーズ KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO ポート COM1

文字列データモード 1 変更

通信設定

通信方式 ☒ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☐ 偶数 ☒ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☐ なし ☒ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台

No. 機器名 設定

1 PLC1 シリーズ=KOSTAC SG/SU/SZシリーズ,局番号=1

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。

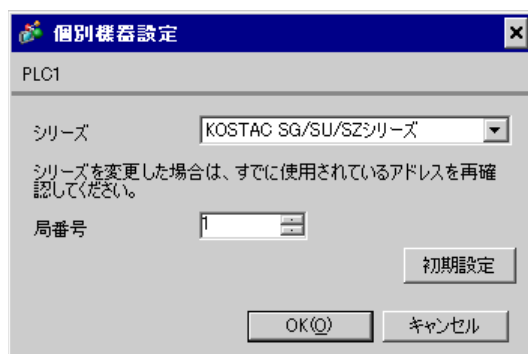
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に 9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は、IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
局番号	接続機器の局番を「1 ~ 90」で入力します。

4.2 オフラインモードでの設定

MEMO

- ・ オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.2 オフラインモードについて」

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの「周辺機器設定」から「接続機器設定」をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO [COM1] Page 1/1				
通信方式	RS232C			
通信速度	19200			
データ長	8			
パリティ	☐ なし ☐ 偶数 ☒ 奇数			
ストップビット	☒ 1 ☐ 2			
フロー制御	ER(DTR/CTS)			
タイムアウト(s)	3			
リトライ	2			
送信ウェイト(ms)	0			
終了		戻る		2007/06/14 15:59:47

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 重 要 通信設定を行う場合、「通信方式」は表示器のシリアルインターフェ이스の仕様を確認し、正しく設定してください。 シリアルインターフェースが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。 シリアルインターフェースの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。

設定項目	設定内容
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO		[COM1]	Page 1/1	
接続機器名		PLC1		
シリーズ 局番号		KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 1		
終了		戻る		2007/06/14 15:59:55

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
局番号	接続機器の局番を「1 ~ 90」で入力します。

■ オプション設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO [COM1] Page 1/1				
RI / VCC ☒ RI ☐ VCC RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。				
	終了		戻る	2007/06/14 16:00:03

設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に 9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は、IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

5 結線図

以下に示す結線図と光洋電子工業㈱が推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

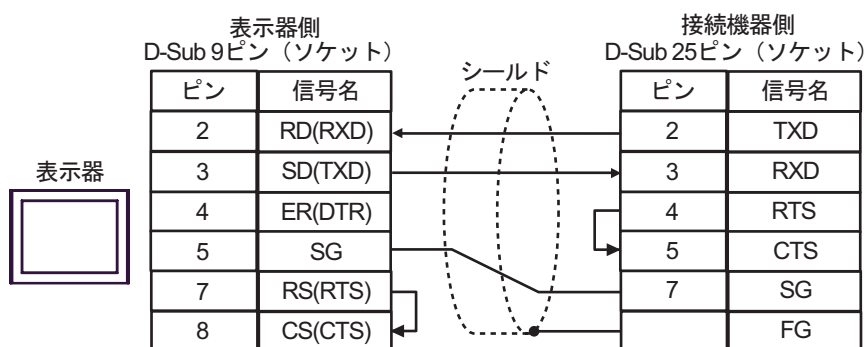
- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT	自作ケーブル	ケーブル長 : 15m 以内

1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

 ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)



結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP3302B (COM2) ST ² (COM2) IPC ³	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 600m 以内
	B	自作ケーブル	
GP ¹ (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

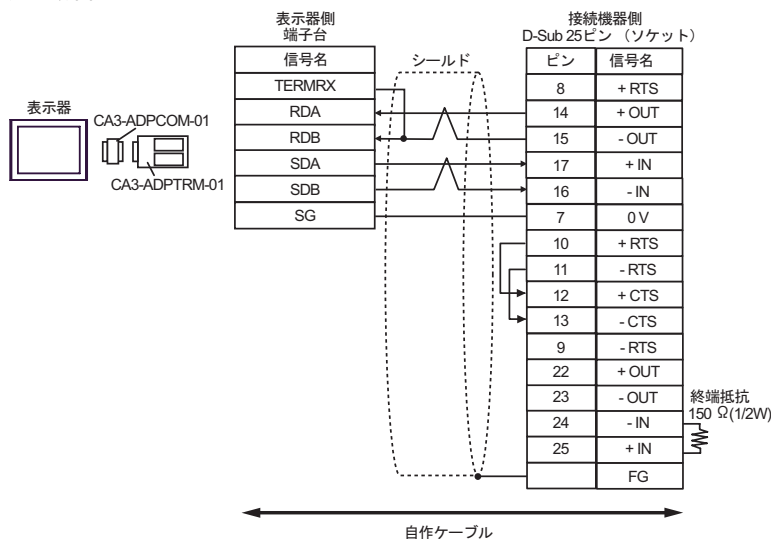
2 AST-3211A 除く全 ST 機種

3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

A. (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合

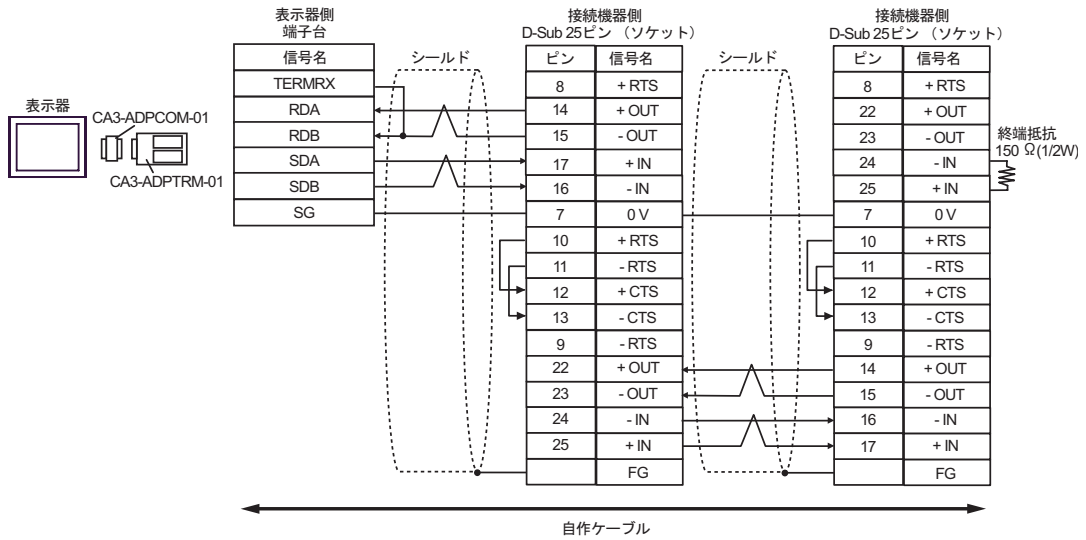
- 1 : 1 接続の場合



MEMO

- ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

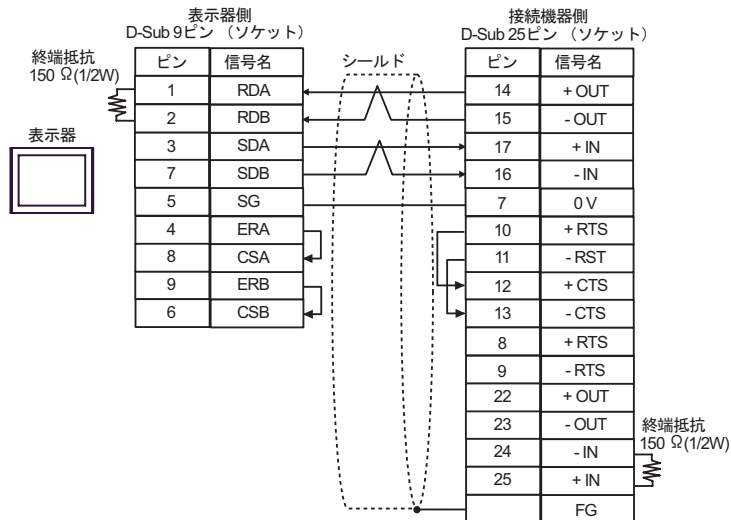
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

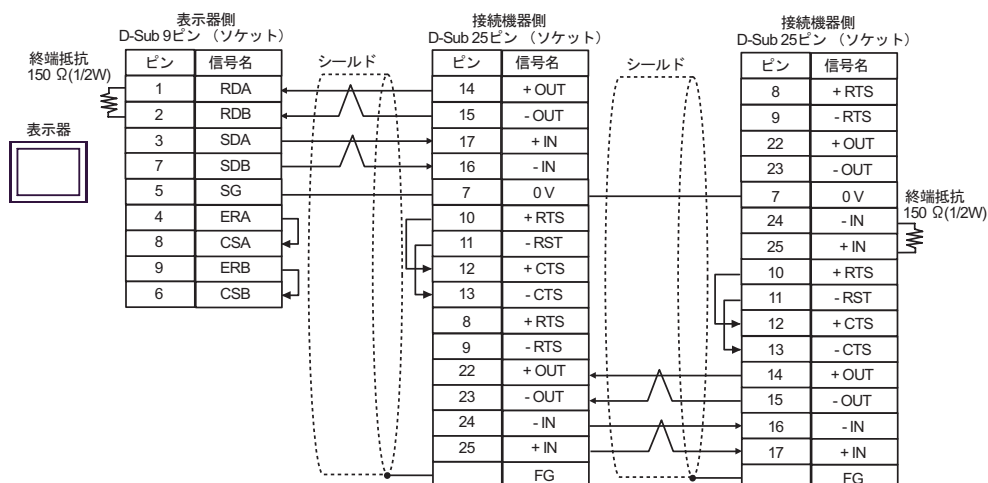
B. 自作ケーブルを使用する場合

- 1 : 1 接続の場合

**MEMO**

・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

- 1 : n 接続の場合

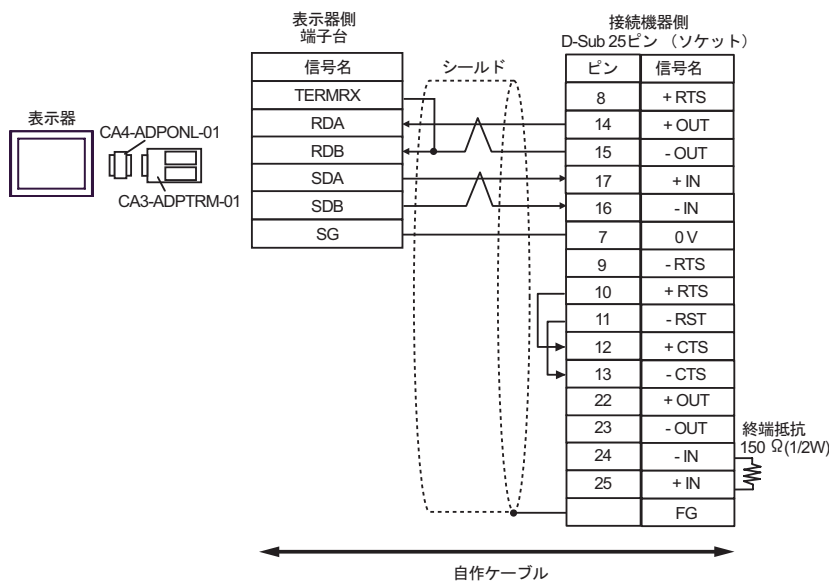


MEMO

- ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

C. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01)、(株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合

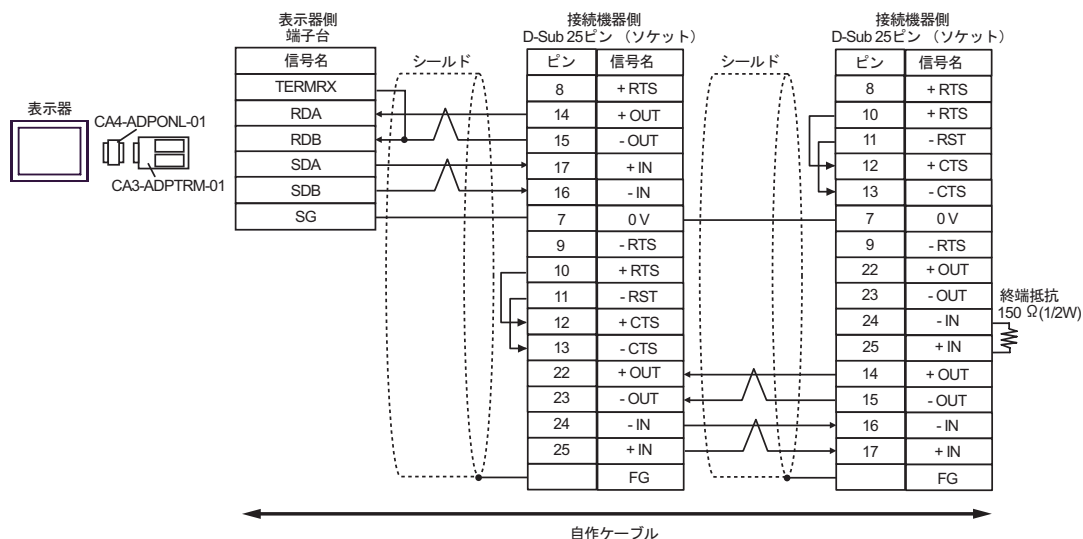
- 1 : 1 接続の場合



MEMO

- ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

・ 1 : n 接続の場合

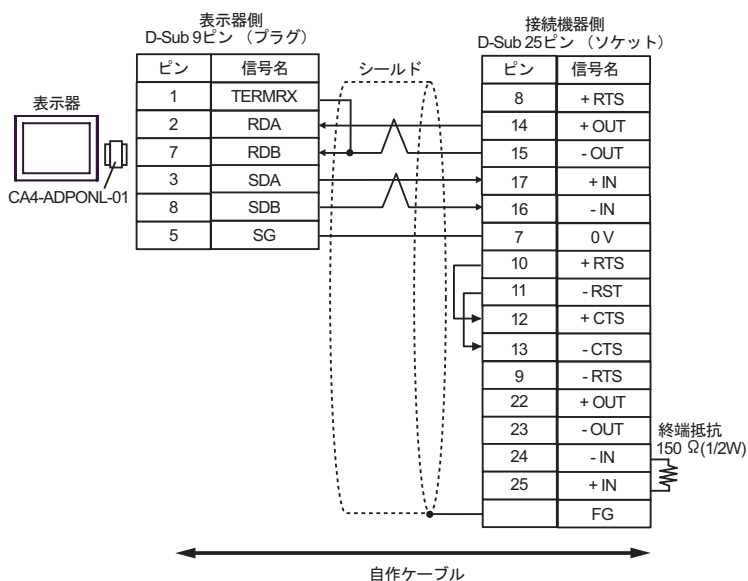


MEMO

- ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

D. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) および自作ケーブルを使用する場合

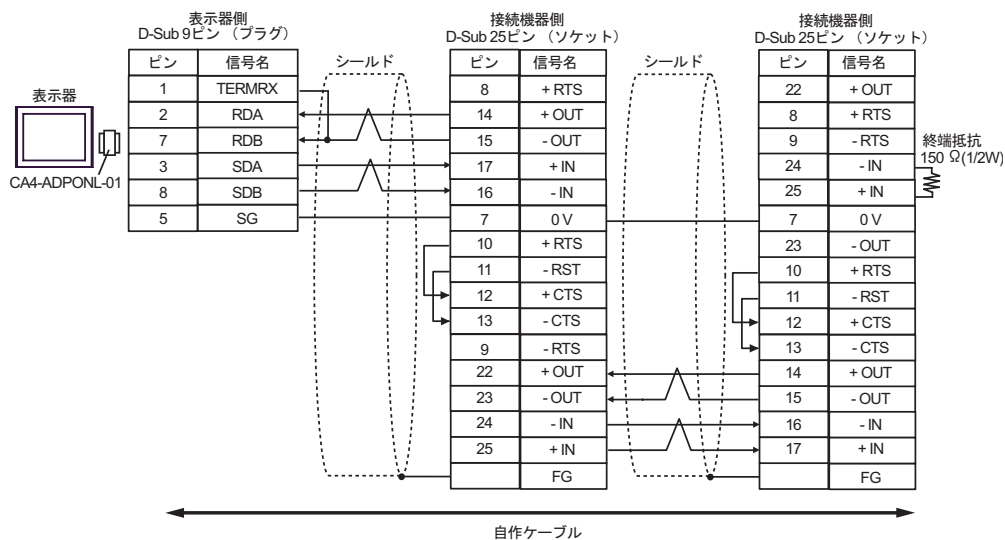
・ 1 : 1 接続の場合



MEMO

- ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

• 1:n 接続の場合



MEMO

- 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

結線図 3

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP3302B (COM2) ST ² (COM2) IPC ³	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 600m 以内
	B	自作ケーブル	
GP (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

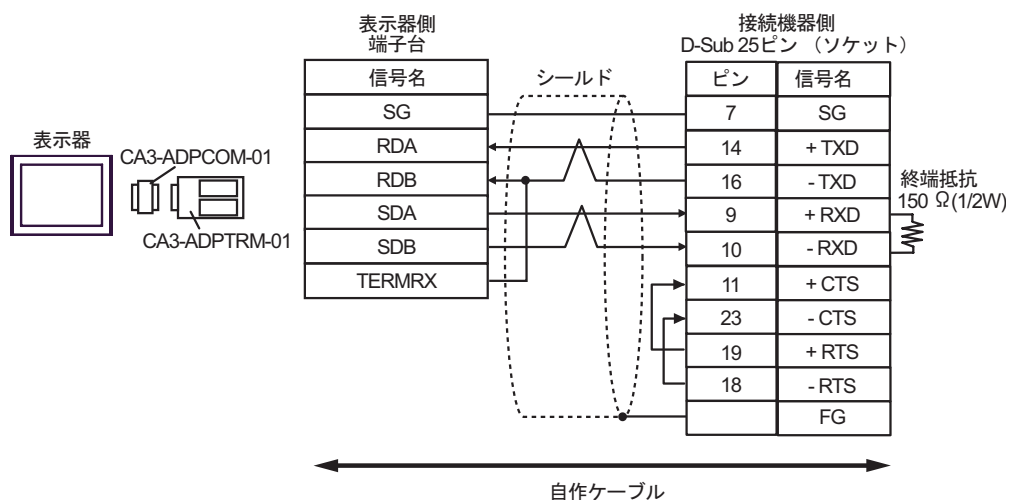
1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

2 AST-3211A 除く全 ST 機種

3 RS-422/485 (4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

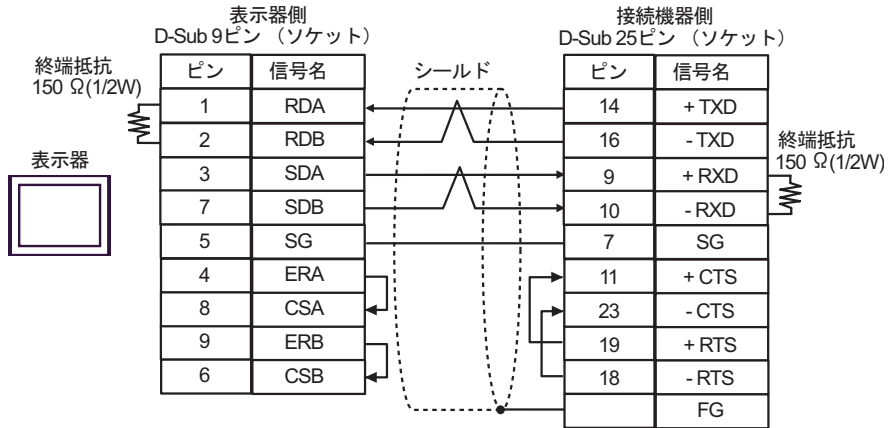
A. (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

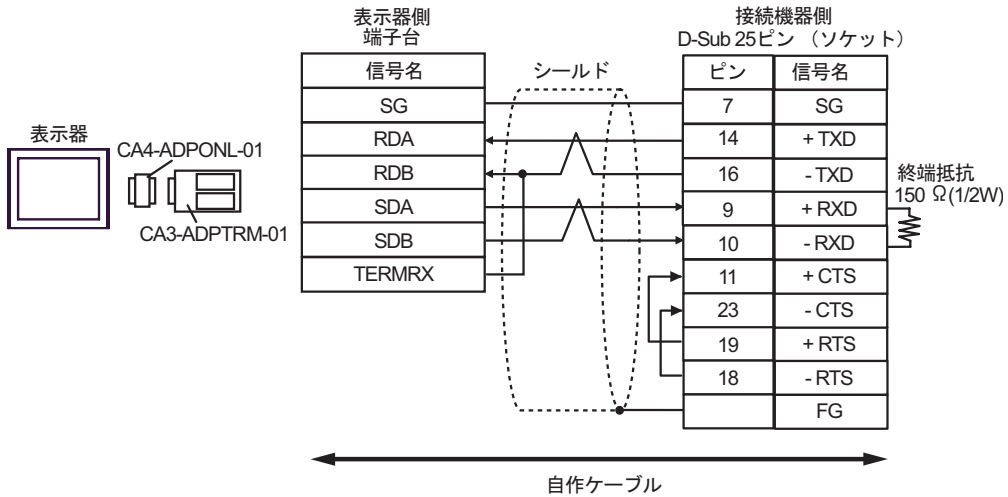
- +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

B. 自作ケーブルを使用する場合

**MEMO**

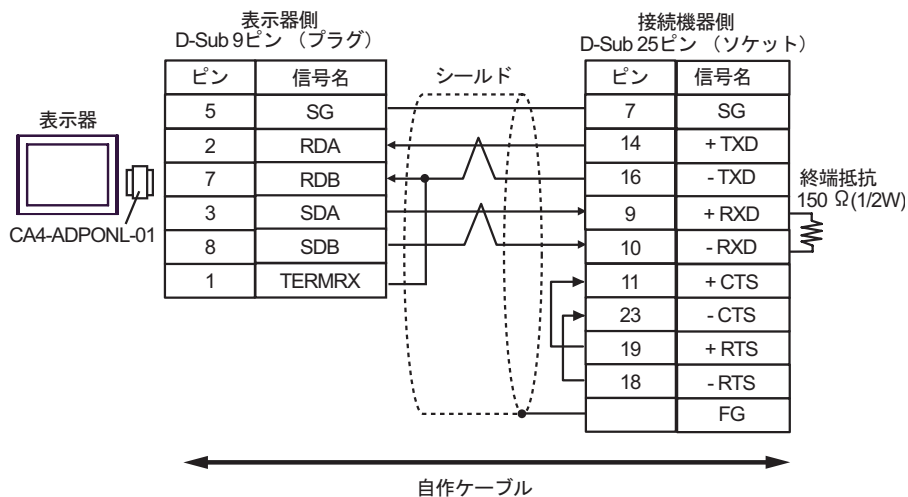
- +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

C. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合

**MEMO**

- +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

D. 株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) および自作ケーブルを使用する場合

**MEMO**

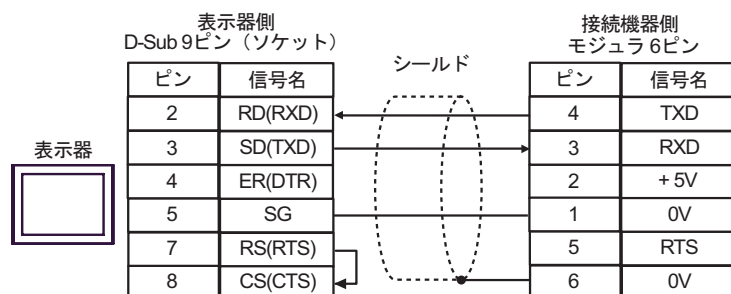
- +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

結線図 4

表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT	自作ケーブル	ケーブル長： 15m 以内

1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

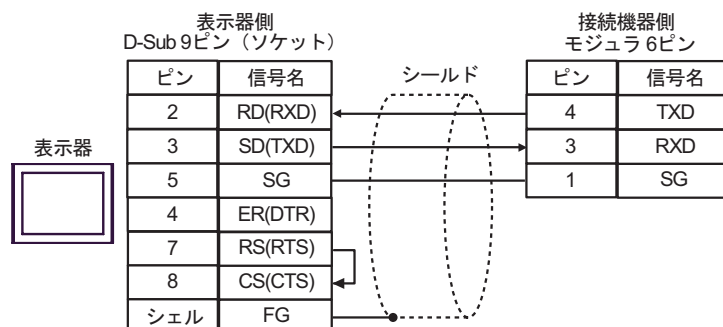


結線図 5

表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT	自作ケーブル	ケーブル長： 3m 以内

1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)



結線図 6

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) ST ² (COM2) IPC ³	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 600m 以内
	B	自作ケーブル	
GP (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

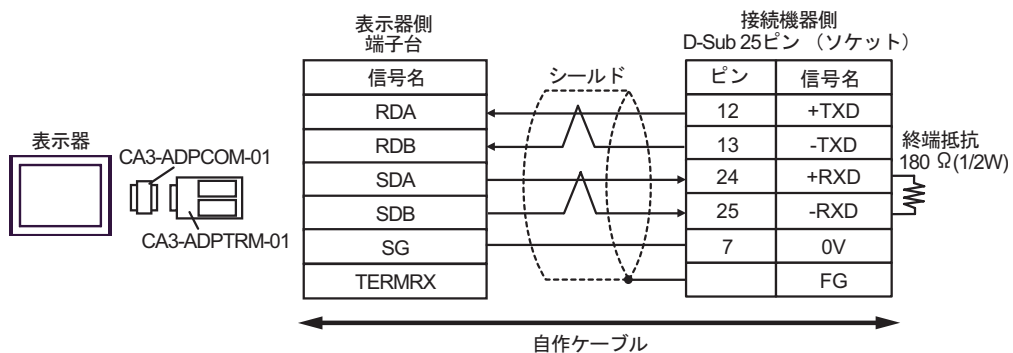
1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

2 AST-3211A 除く全 ST 機種

3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

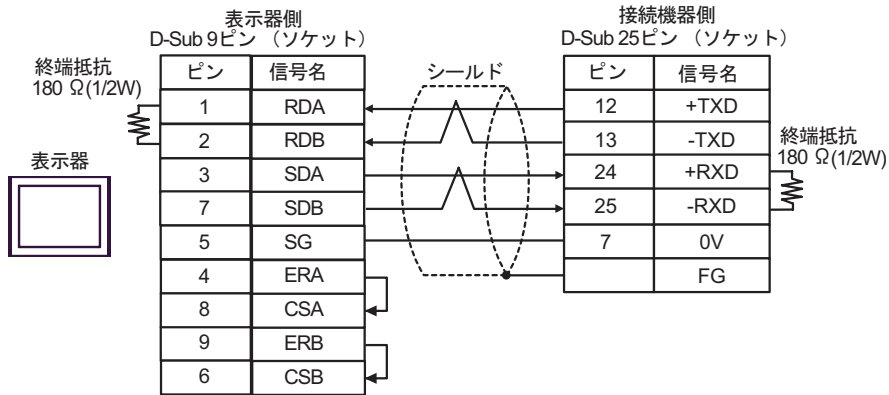
☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

A. (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合

**MEMO**

- ・ +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

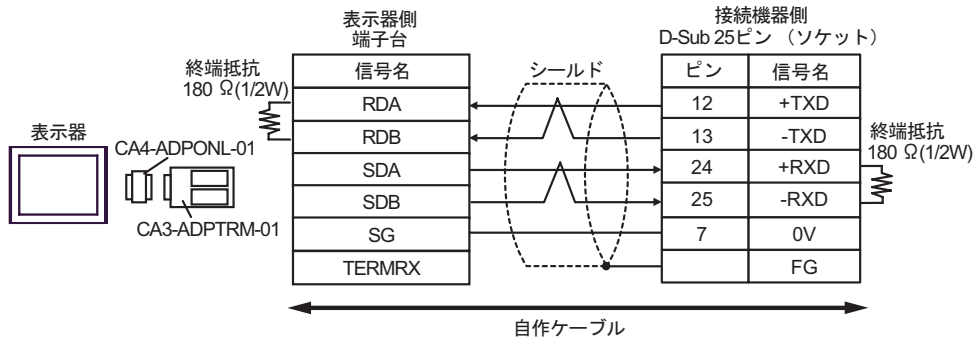
B. 自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

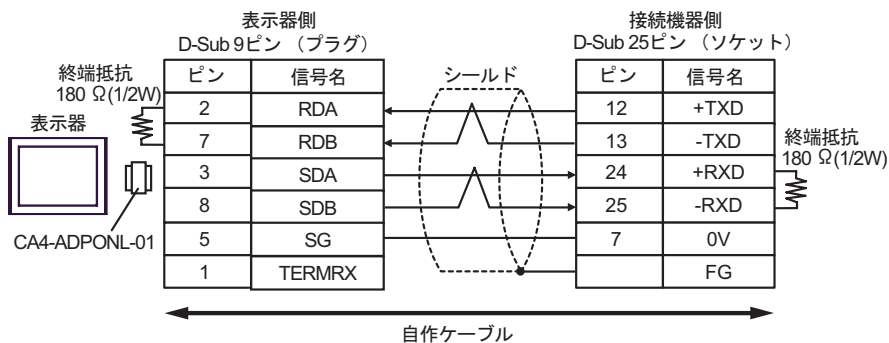
C. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01)、(株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

D. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

結線図 7

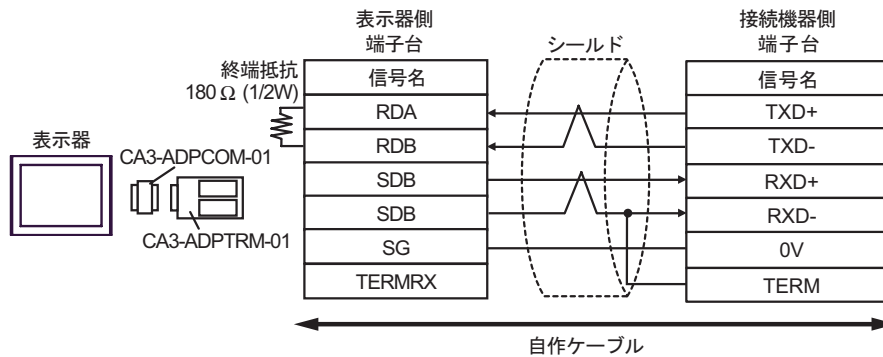
表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) ST (COM2) IPC ²	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 600m 以内
	B	自作ケーブル	
GP (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

2 RS-422/485 (4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

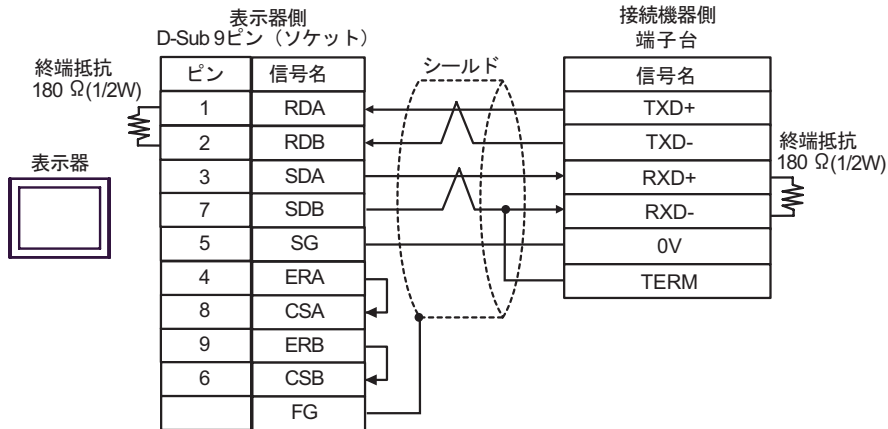
A. (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) \ (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- ・ +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

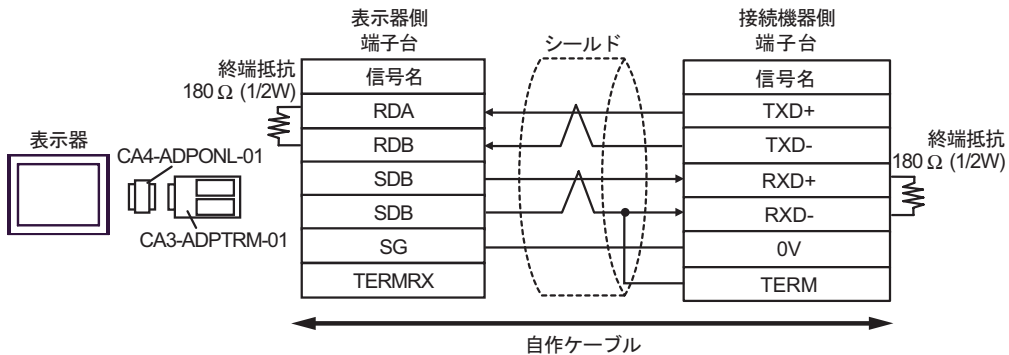
B. 自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

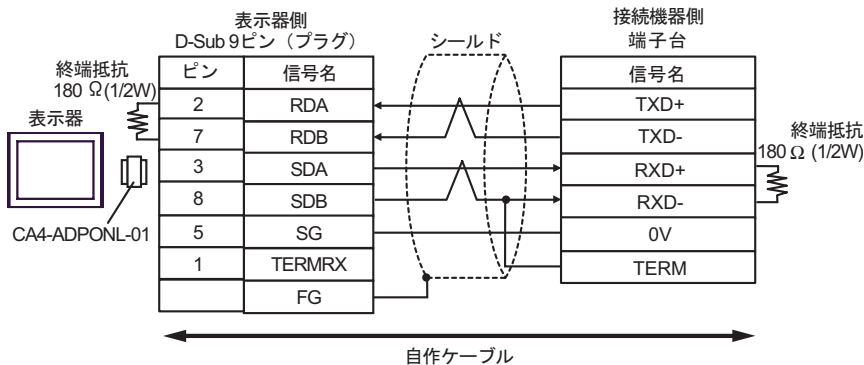
C. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01)、(株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

D. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

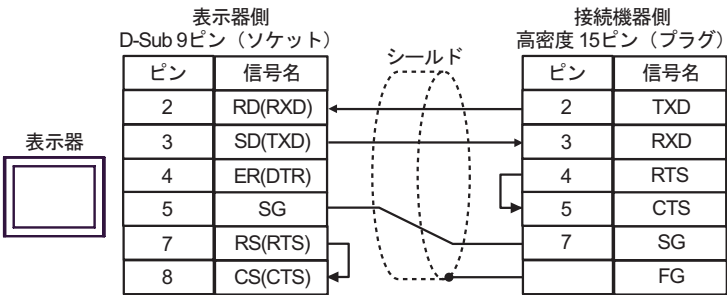
- +RXD、-RXD には終端抵抗 180Ω を接続してください。

結線図 8

表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT	自作ケーブル	ケーブル長 : 15m 以内

1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)



結線図 9

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) ST ² (COM2) IPC ³	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長 : 600m 以内
	B	自作ケーブル	
GP (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

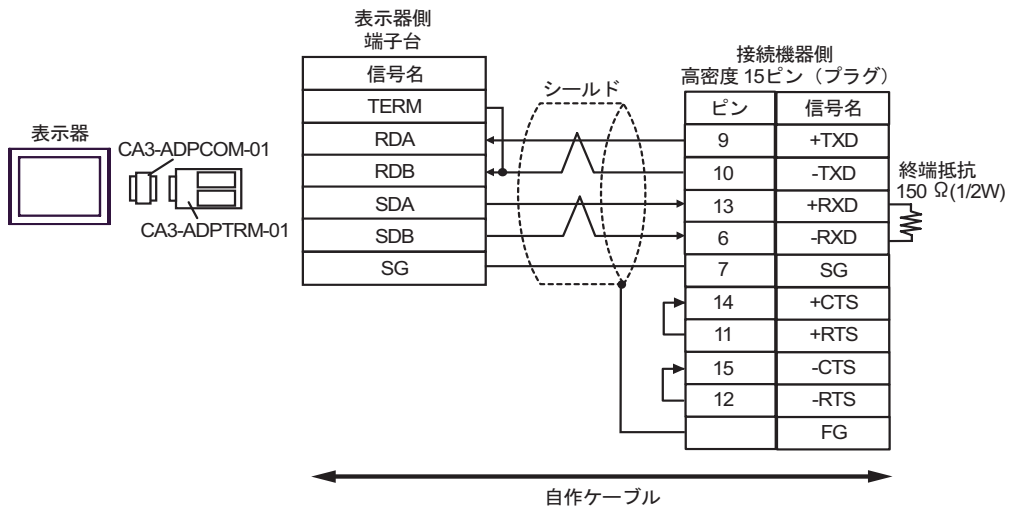
1 AGP-3302B を除く全 GP 機種

2 AST-3211A を除く全 ST 機種

3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

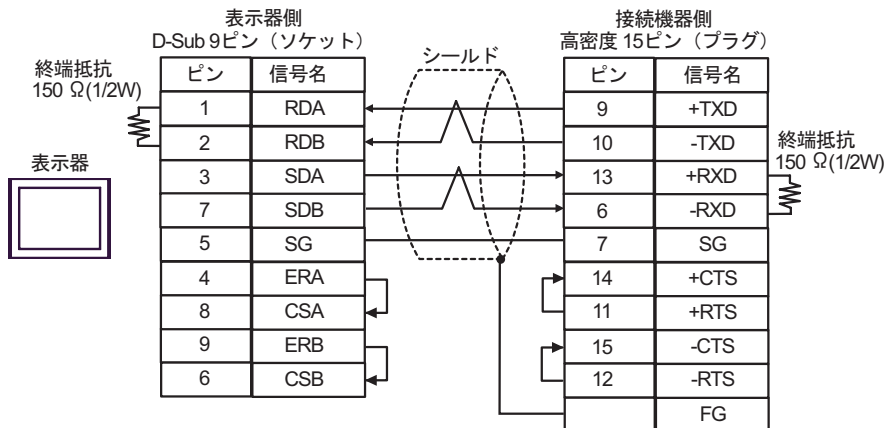
☞ ■ IPC の COM ポートについて (6 ページ)

A. (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合

**MEMO**

- ・ +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

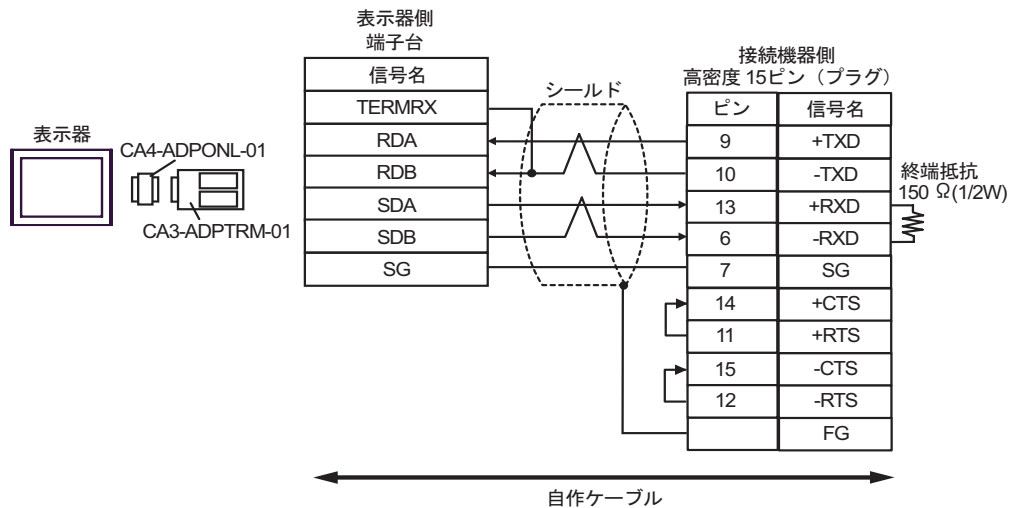
B. 自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- ・ +RXD、-RXD には終端抵抗 150 Ω を接続してください。

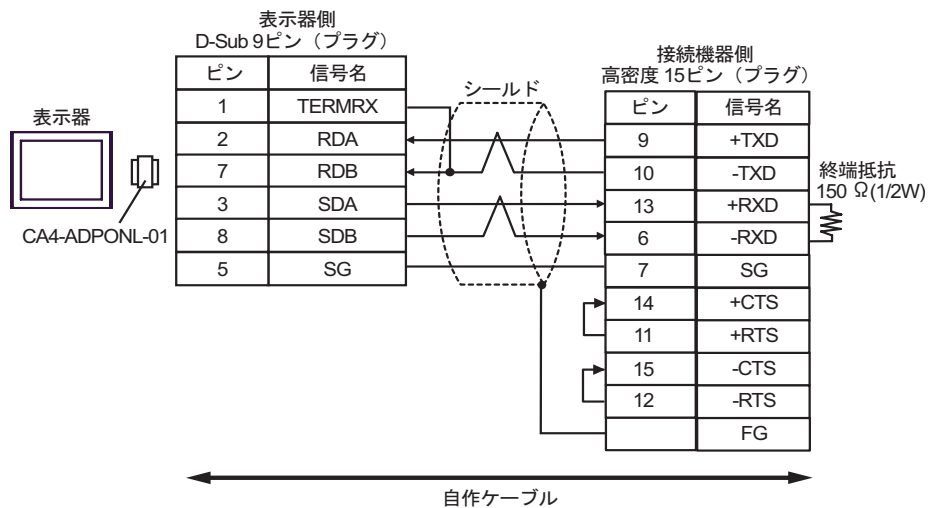
C. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01)、(株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

- ・ +RXD、-RXD には終端抵抗 150 Ω を接続してください。

D. (株) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) および自作ケーブルを使用する場合



MEMO

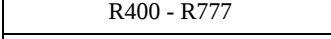
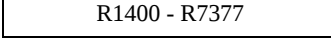
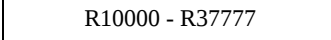
- +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。使用できるデバイスの種類、範囲は CPU によって異なる場合があります。ご使用になられる前に、各 CPU のマニュアルでご確認ください。

■ KOSTAC SG シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I1777	R40400 - R40477		 1
出力リレー	Q0000 - Q1777	R40500 - R40577		 1
全局伝送リレー (入力)	GI0000 - GI3777	R40000 - R40177		 1
特別局伝送リレー (出力)	GQ0000 - GQ3777	R40200 - R40377		 1
内部リレー	M0000 - M3777	R40600 - R40777		 1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		 1
タイマ (接点)	T000 - T377	R41100 - R41117		 1
カウンタ (接点)	C000 - C377	R41140 - R41157		 1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41077		 1
タイマ (経過値)	-	R0000 - R0377		
カウンタ (経過値)	-	R1000 - R1377		
データレジスタ 1	-	 R400 - R777		 
データレジスタ 2	-	 R1400 - R7377		 
特殊レジスタ	-	R7400 - R7777		 
データレジスタ 3	-	 R10000 - R37777		 

- 1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- ・表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ KOSTAC SU シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I000 - I477	R40400 - R40423		 1
出力リレー	Q000 - Q477	R40500 - R40523		 1
リンクリレー / リンク入力	GI0000 - GI1777	R40000 - R40077		 1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		 1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP717	R41200 - R41205 R41215 - R41234		 1
タイマ (接点)	T000 - T377	R41100 - R41117		 1
カウンタ (接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		 1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41077		 1
タイマ (経過値)	-	R0000 - R0377		
カウンタ (経過値)	-	R1000 - R1177		
データレジスタ	-	R1400 - R7377		 
特殊レジスタ ²	-	R700 - R737 R7400 - R7777		 
拡張レジスタ ³	-	R10000 - R17777		 

- ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- データの書き込みはできません。特殊レジスタの R700 ~ R737 は SU-6B のみ使用可能です。
- SU-6B のみ使用可能です。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

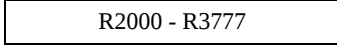
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ KOSTAC SZ シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I0477	R40400 - R40423		 1
出力リレー	Q0000 - Q0477	R40500 - R40523		 1
内部リレー	M0000 - M0377	R40600 - R40617		 1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP617	R41200 - R41205 R41215 - R41230		 1
タイマ (接点)	T000 - T177	R41100 - R41107		 1
カウンタ (接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		 1
ステージ	S000 - S777	R41000 - R41037		 1
タイマ (経過値)	-	R000 - R177		
カウンタ (経過値)	-	R1000 - R1177		
データレジスタ	-	 R2000 - R3777		 
特殊レジスタ	-	R7746 - R7777		 

- 1 ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ KOSTAC PZ3 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I0777	R40400 - R40437		 1
出力リレー	Q0000 - Q0777	R40500 - R40537		 1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		 1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		 1
タイマ（接点）	T000 - T377	R41100 - R41117		 1
カウンタ（接点）	C000 - C377	R41140 - R41147		 1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41037		 1
タイマ（経過値）	-	R00000 - R41177		 1
カウンタ（経過値）	-	R01000 - R41147		 1
データレジスタ	-	R1400 - R7377 R10000 - R17777		 
特殊レジスタ	-	R41200 - R41237		 

- 1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

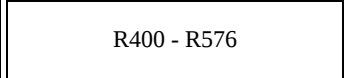
参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- ・表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ KOSTAC SR シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入出力リレー	000 - 157 700 - 767	R000 - R014 R070 - R076 (前半 1 バイト)		  1
内部リレー	160 - 377 770 - 777	R016 - R036 R076 (後半 1 バイト)		  1
シフトレジスタ	400 - 577	R040 - R056		  1
タイマ・カウンタ (接点)	600 - 677	R060 - R066		  1
タイマ・カウンタ (経過値)	-	R600 - R677		
データレジスタ	-	 R400 - R576		  

- 1 ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

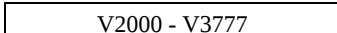
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ DL-205 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	X0000 - X0477	V40400 - V40423		 1
出力リレー	Y0000 - Y0477	V40500 - V40523		 1
コントロールリレー	C0000 - C0377	V40600 - V40617		 1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP617	V41200 - V41205 V41215 - V41230		 1
タイマ (接点)	T000 - T177	V41100 - V41107		 1
カウンタ (接点)	CT000 - CT177	V41140 - V41147		 1
ステージ	S000 - S777	V41000 - V41037		 1
タイマ (経過値)	-	V0000 - V0177		 1
カウンタ (経過値)	-	V1000 - V1177		 1
データレジスタ	-	 V2000 - V3777		 
特殊レジスタ	-	V7746 - V7777		 

- 1 ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。

MEMO

- ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

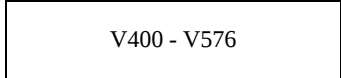
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- ・表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ DL-305 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入出力リレー	000 - 157 700 - 767	V000 - V014 V070 - V076 (前半 1 バイト)		  1
コントロールリレー	160 - 377 770 - 777	V016 - V036 V076 (後半 1 バイト)		  1
シフトレジスタ	400 - 577	V040 - V056		  1
タイマ・カウンタ (接点)	600 - 677	V060 - V066		  1
タイマ・カウンタ (経過値)	-	V600 - V677		 
データレジスタ	-	 V400 - V576		  

- 1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ DL-405 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	X000 - X477	V40400 - V40423		 1
出力リレー	Y000 - Y477	V40500 - V40523		 1
リンクリレー	GX0000 - GX1777	V40000 - V40077		 1
リンク出力リレー	GY0000 - GY3777	V40200 - V40377		 1
コントロールリレー	C0000 - C1777	V40600 - V40677		 1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP717	V41200 - V41205 V41215 - V41234		 1
タイマ（接点）	T000 - T377	V41100 - V41117		 1
カウンタ（接点）	CT000 - CT177	V41140 - V41147		 1
ステージ	S0000 - S1777	V41000 - V41077		 1
タイマ（経過値）	-	V0000 - V0377		 1
カウンタ（経過値）	-	V1000 - V1177		 1
データレジスタ 1	-	V400 - V777		 
データレジスタ 2	-	V1400 - V7377		 
特殊レジスタ	-	V7400 - V7777		 
データレジスタ 3	-	V10000 - V37777		 

- 1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

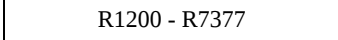
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ Direct Logic 05 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I0377	R40400 - R40417		 1
出力リレー	Q0000 - Q0377	R40500 - R40517		 1
内部リレー	M0000 - M0777	R40600 - R40637		 1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		 1
タイマ（接点）	T000 - T177	R41100 - R41107		 1
カウンタ（接点）	C000 - C177	R41140 - R41147		 1
ステージ	S000 - S377	R41000 - R41017		 1
タイマ（経過値）	-	R000 - R177		 1
カウンタ（経過値）	-	R1000 - R1177		 1
V- メモリ	-	 R1200 - R7377		  2
V- メモリ 不揮発性	-	R7400 - R7577		  1
システムパラメータ	-	R7600 - R7777		  1

- 1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- 2 R1200 ~ R1377 はビット指定できません。

MEMO

- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ Direct Logic 06 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I0777	R40400 - R40437		 1
出力リレー	Q0000 - Q0777	R40500 - R40537		 1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		 1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		 1
タイマ（接点）	T000 - T377	R41100 - R41117		 1
カウンタ（接点）	C000 - C177	R41140 - R41147		 1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41147		 1
タイマ（経過値）	-	R000 - R377		 1
カウンタ（経過値）	-	R1000 - R1177		 1
V- メモリ	-	R0400 - R0677 R1200 - R7377 R1000 - R1777		  2
V- メモリ 不揮発性	-	R7400 - R7577		  1
システムパラメータ	-	R700 - R777 R7600 - R7777 R3600 - R3777		  1

1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

2 R1200 ~ R1377 はビット指定できません。

MEMO

- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

■ KOSTAC SG/KOSTAC SU/KOSTAC SZ/KOSTAC PZ3/Direct Logic 05/Direct Logic 06 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	I/R	0080	ワードアドレス
出力リレー	Q/R	0081	ワードアドレス
リンクリレー	GI/R	0082	ワードアドレス
リンク出力リレー	GQ/R	0083	ワードアドレス
内部リレー	M/R	0084	ワードアドレス
特殊リレー	SP/R	0085	ワードアドレス
タイマ（接点）	T/R	00E0	ワードアドレス
カウンタ（接点）	C/R	00E1	ワードアドレス
ステージ	S/R	0004	ワードアドレス
タイマ（経過値）	R	0060	ワードアドレス
カウンタ（経過値）	R	0061	ワードアドレス
データレジスタ 1	R	0000	ワードアドレス
データレジスタ 2	R	0001	ワードアドレス
特殊レジスタ	R	0002	ワードアドレス
データレジスタ 3	R	0003	ワードアドレス

■ KOSTAC SR シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入出力リレー (R000 - R014)	.../R	0080	ワードアドレス ÷ 2 の値
入出力リレー (R070 - R076)			
内部リレー (R016 - R036)			
内部リレー (R076)			
シフトレジスタ			
タイマ・カウンタ (接点)			
タイマ・カウンタ (経過値)	R	0060	ワードアドレス
データレジスタ	R	0000	ワードアドレス ÷ 2 の値

■ DL-205/DL-405 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X/V	0080	ワードアドレス
出力リレー	Y/V	0081	ワードアドレス
リンクリレー	GX/V	0082	ワードアドレス
リンク出力リレー	GY/V	0083	ワードアドレス
コントロールリレー	C/V	0084	ワードアドレス
特殊リレー	SP/V	0085	ワードアドレス
タイマ (接点)	T/V	00E0	ワードアドレス
カウンタ (接点)	CT/V	00E1	ワードアドレス
ステージ	S/V	0004	ワードアドレス
タイマ (経過値)	V	0060	ワードアドレス
カウンタ (経過値)	V	0061	ワードアドレス
データレジスタ 1	V	0000	ワードアドレス
データレジスタ 2	V	0001	ワードアドレス
特殊レジスタ	V	0002	ワードアドレス
データレジスタ 3	V	0003	ワードアドレス

■ DL-305 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入出力リレー (V000 - V014)	.../V	0080	ワードアドレス ÷ 2 の値
入出力リレー (V070 - V076)			
コントロールリレー (V016 - V036)			
コントロールリレー (V076)			
シフトレジスタ			
タイマ・カウンタ (接点)			
タイマ・カウンタ (経過値)	V	0060	ワードアドレス
データレジスタ	V	0000	ワードアドレス ÷ 2 の値

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO ・ IP アドレスは「IP アドレス (10 進数): MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 ・ デバイスアドレスは「アドレス: デバイスアドレス」のように表示されます。 ・ 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード: 1[01H])」

MEMO

- ・ 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ・ ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「エラーが表示されたら (エラーコード一覧)」を参照してください。

■ 接続機器特有のエラーコード

接続機器特有のエラーコードは、以下のようになります。

エラーコード	説明
01	シリアルリンク上でタイムアウトが発生しました。
04	利用できる範囲外の入出力データを要求されました。
0C	ヘッダ転送時、3 回リトライしてもエラーが発生しました。
0D	データ転送時、3 回リトライしてもエラーが発生しました。
14	データブロック転送中、以下のエラーのうち 1 つ以上が発生しました。 ・ 無効な STX を受信した ・ 無効な ETB を受信した ・ 無効な ETX を受信した ・ 無効な LRC を受信した ・ パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した
15	親局からの EOT の受信を待っていましたが、受信できませんでした。
16	ACK/NAC 待ちのとき、どちらも受信できませんでした

エラーコード	説明
1D	ヘッダ / データ転送以外で以下のエラーのうち 1 つ以上が発生しました。 ・無効な STX を受信した ・無効な ETB を受信した ・無効な ETX を受信した ・無効な LRC を受信した ・パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した
1E	ヘッダ転送中、以下のエラーのうち 1 つ以上が発生しました。 ・無効な SOH を受信した ・無効な ETB を受信した ・無効な LRC を受信した ・パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した

